

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市廃棄物減量等推進審議会				
事務局 (担当課)		廃棄物政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 3 6 (直通)				
開催日時		令和 6 年 6 月 1 4 日 (金) 1 4 時 0 0 分 ~ 1 6 時 0 0 分				
開催場所		総合学習センター 2 階 セミナールーム				
出席者	委員	1 4 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 9 人 (ゼロカーボン・資源循環推進担当部長、廃棄物政策課長、他 1 7 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		1 開会 2 報告 (1) 令和 6 年能登半島地震に伴う職員派遣結果報告について (2) 相模原市一般廃棄物最終処分場の愛称決定について (3) 最終処分場延命化のために検討中の取組について (4) ごみ収集業務のあり方検討等業務委託結果及び本市の分析について 3 議題 (1) 令和 6 年度審議会の進め方についてについて ア 家庭系一般ごみの有料化等の検討の進め方について イ スケジュールについて 4 その他 5 閉会				

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

定足数確認の上、開会した。

2 報告

- (1) 令和 6 年能登半島地震に伴う職員派遣結果報告について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

なし

- (2) 相模原市一般廃棄物最終処分場の愛称決定について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

なし

- (3) 最終処分場延命化のために検討中の取組について
事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(浅賀委員) 最終処分場の延命化のシステムは、他の自治体でもこのような形をとられているのか。これが一般的な形なのか。

(事 務 局) 一般廃棄物の処理は市町村ごとに最適な方法を選択しており、焼却灰はそのまま埋め立てているところも資源化しているところもある。

(浅賀委員) 相模原市は資源化という方向をとっているのか。

(事 務 局) 現在も熔融スラグを資源として有効利用しており、今回検討しているのが、南清掃工場から搬出される不適物の資源化である。

(浅賀委員) 最終処分場が、令和 19 年で限界ということだが、北清掃工場はどのような状況なのか。

(事 務 局) 北清掃工場と南清掃工場の 2 箇所焼却しているが、北清掃工場の焼却灰は南清掃工場ですべて燃やしている。どちらで燃やしても焼却残渣は南清掃工場に集まり、市全体として最終処分場は令和 19 年までが限界

である。

(栗岡委員) 延命化とは直接関係ないが、最近、最終処分場の浸出水から PFAS が検出される地域が相次いでいる。今問題になっているのは産業廃棄物の処分場からだが、一般廃棄物の処分場からも出ている例が全国にはある。相模原市の最終処分場では測定しているのか。もし測定して PFAS が出るようなら、早急に活性炭を入れるなど何か対応が必要だと思う。

(事務局) 現在は測定していない。浸出水は処理後に公共水域ではなく下水道に放流している状況ではある。

(栗岡委員) 測定するに越したことはないと思う。やはり各地で検出されており、最終処分場というのは一番出やすい施設の一つだと思う。既に相模原市内で 10 数ヶ所検査しているが、こういった施設も加えたらどうか。

(事務局) 一般廃棄物と産業廃棄物では埋立物に違いがある。

(栗岡委員) 千葉県などは一般廃棄物の処分場でも検出されている。PFAS は完全には処理しにくい性質なので、地下水汚染を防ぐためにも早急に対策を立てた方が良くと思うので、検討してほしい。

(浅賀委員) PFAS は全国的に問題になっており、下水道や水に直結したところに影響が出てくる危険性もある。ぜひ一般廃棄物でも検査を相模原市が先進的に行い、市民の暮らしを守る視点から始めていただきたい。

(大河内委員) 不適物を資源化しようということだが、不適物はどのくらいの年間発生量なのか。もう 1 点、不適物も金属はそのまま回収して売却ということだが、金属以外のものを溶融して固めて碎石にする場合、新たな施設が必要と感じたがいかがか。

(事務局) 不適物の年間発生量は約 6,200 トンで、選別作業は南清掃工場の既存設備の活用を検討している。金属選別後のガラスや陶磁器は民間業者に委託し溶融処理するため、市で新たに施設を整備することはない。

(藤倉委員) 溶融スラグの発生量、埋立量、道路材料として活用している量を教えてほしい。埋め立てざるを得ないスラグをどのくらいまで利活用しようとしているのかは、資料を作る上であわせて出してほしい。

(事務局) スラグは年間約 6,500 トン生成しており、利活用はそのうち約 1,400 トン、覆土利用は約 2,000 トンで、残りを埋め立てている状況。公共道路工事があれば可能な限り多く利活用したい。

(4) ごみ収集業務のあり方検討等業務委託結果及び本市の分析について事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(中島委員) ごみ収集業務のあり方の検討は、いつ、どのような業者に委託をされたのか教えてほしい。

有料化について、デメリットの一番上の市民の金銭的負担が増加するという記載は良いが、2番目から4番目はおそれがあるという書き方であり、実態を調査しているのか疑問である。先行市ではこの問題が生じているのか、そういう点もしっかり調べていただく必要がある。

戸別収集については、デメリットは経費、人員確保の問題だけと思う。この点は、以前、松平委員が多摩市では経費があまり増えることなく実施できたと話していたので、松平委員の意見もお聞きしたい。

(事務局) 本契約は、令和5年10月10日に委託契約をして、業者は廃棄物に関わっているコンサルタント会社である。デメリットの中のおそれがあるという点については、有料化を実施したすべての自治体に確認しているわけではない。

(松平委員) あまりごみに詳しくないコンサルタント会社が受注したと感じた。経費計算の仕方が大きく間違えていて、ごみ収集に一番時間がかかるのはパッカー車が満タンになって清掃工場に向かう時間である。東橋本だと大体15分か20分で北清掃工場に着いて順番待ちで台貫で重さを量り、それからピットにごみを下ろし、ピットから降りてそこで手を洗ったりトイレを済ましたりしてから台貫に乗り計量してまた続きの場所まで戻ると、往復で1時間ぐらいかかる。戸別収集になると倍以上かかるというのはまずあり得ない。

多摩市は平成12年10月に、それまでダストボックス収集から戸別収集に変えた。ダストボックスとは金属製のボックスが街中に幾つも置いてあり、24時間いつでも誰でもごみを捨てられる方式である。ボックスの上のフックにクレーンをかけて持ち上げ、収集車両の上で、レバーを引くとボックスの下が開いて、ごみが落ちる。一瞬でごみ収集ができていつでもごみが捨てられて便利であったが、ごみが減らないため変更になった。25年前の資料を探してきたが、平成11年度のダストボックス収集時と戸別収集になった平成13年度のごみ収集経費の差は5112万4620円の増で、経費の5.8%にあたる。なぜなら、ごみが減るからである。戸別収集にして、ごみが減れば先まで収集ができ、清掃工場に行く回数が減らせて時間が取れる。収集車両台数は少し増やせば戸別収集に対応できるし費用もそれほどはかからない。少し負担が増えるだけで戸別収集ができるからどの自治体も戸別収集を選んだということだと思

う。可能であれば先行自治体にどのぐらい費用が増えたのか聞いて、その平均値から計算すれば間違いないと思う。

一般ごみの有料化については、容器包装プラスチックも有料化するものだと思っている。容器包装プラを有料化するとペットボトルと別々に出すので、発生を抑制することができると思う。

有料化自治体のごみ減量効果のグラフについて、多摩地域を見ると皆350g ぐらいに減っているが、こんなに減るわけないと思い、実態調査を確認したところ、可燃ごみの全国の1人当たりの排出量が400グラムを下回る自治体は国分寺市以外にない。また、ステーション収集の国立市は476.9グラム、戸別収集の府中市は434.6グラム、その差は42.3グラムあり、ステーション収集と戸別収集によるごみ量の明確な差は見られないというのは間違いである。

(事務局) 私どもは、お金がかかるから無理とか、有料化は少し身入りがあるからやれそうだとか、この結果をもって稚拙に判断するつもりはない。いただいたご意見も踏まえながら、本市として望ましい手法を検討をしていければと思っている。ご指摘についてはしっかり検討して参りたい。

(大河内委員) 戸別収集について、あまり時間は増えないのではないかというご意見があったが、率直な感想として収集時間2.1倍というのはかなり控え目な推測という印象を受けた。ここで引用した文献を見ると大体収集時間としては3倍程度に伸びていて、しかも道路事情などは都市ごとに違うので、相模原市の場合を想定するとむしろそれよりも作業時間は伸びる可能性が高いのではないかと思う。

走行距離が増えたという前提で計算をしていると思うが、シミュレーションをしっかりとした上で本市の特性に合わせた数値を検討いただくのが良いという印象を受けた。先行して戸別収集を実施しているところの情報が入手できれば、検討していきたい。

(事務局) 相模原市は地理的な特性があると考えている。旧市と合併後の津久井地域では環境も大きく異なり、収集の方法や時間も大きく異なる。収集の半分を民間業者で、もう半分を直営で実施しているという事情もあり、実際はどのぐらいになるのかしっかりと考えていきたい。

(浅賀委員) 私は消費者の会から来ているが、ごみのテーマは生活に直結してとても大事である。目的は何が一番なのか教えてほしい。それと結論をいつ、どの程度までに出したいのかも整理しておきたい。とても大事な問題であり、もちろん審議会での審議は必要だが、市民に幅広く合意を得ていかなければならない大きな問題だと思う。データも開示してもら

い、パブリックコメントも含めて丁寧に進めていただきたいということで、その一番の目的と、どこまでに結論を出したいのか教えていただきたい。

(事務局)いかにごみを減らしていけるかというところを議論の出発点にしたいと思っている。その中で、焼却工場は老朽化が進むので、建替のときに規模が小さくできるのではないかとか、いつまでも埋立場所を確保し続けられるとは考えていないので、ごみをどれだけ減らしていけるかに尽きると思う。

例えば有料化が一つの大きな策となったとき、市民にどのようにご理解いただくのか、どのくらいの有料化にしたら良いのかはまだ次の議論で、しっかり市民のご意見も伺いながら考えていくことになると思うし、その歳入の扱いも良く議論していかなければいけない。

私たちも他の自治体の状況をさらに調べる必要があると思っており、この審議会から率直なご意見をいろいろいただき、それを踏まえながら、市としてもどこかの時点で一定の判断をしたいと考えている。

(原委員)有料化は、導入5年目の削減効果は継続しているとのことだが、これ下限値のところが続いているだけで、さらに減っていることではないと思う。さらに減らすには1リットル当たりの金額を上げないと減らない。それ以上のごみの減量はできないというのも少し考えてもらいたい。

戸別収集のメリットにある不適切な排出ごみの削減に繋がるというのは、回収する立場から言うと、不適切なごみは回収しないで確実に置いてくることをしないといけない。

集合住宅が多い街は回収が簡単かも知れないが、戸建住宅が密集しているところはかなり時間がかかり、玄関の場所は行ってみないとわからないところもたくさんある。ドライバーが変わると、かなり慣れてこないと簡単に集められないと思うので、かなり人がかかると思う。2.1倍というのは地区によってはもっと多くの時間がかかると考えている。

市民には分別がされていないと回収しないことを明確にしないとできないし、有料化によってごみを減らすのは金額によらないとできないと思う。

(加賀谷委員)戸別収集のデメリットの2番と3番はメリットではないかと思う。ごみの出し方を適当にやっている人は少ないと思うが、戸別収集になると各自が責任を持ち対処するようになるので、カラスなどの小動物などによるごみの散らかりなどは減少すると思う。実際にごみ出し現場を見られている方はご存知と思うが、とても悲惨な状態で、汚物が散らかって

いるような状態を当番の人が清掃しなければならない。それがとても問題になっていると思う。

また、ごみ出し場所の清掃は各戸が行うことになることは当たり前で、自分で出したごみの始末は自分たちがやるのは原則だと思うので、しっかり処理しない人たちの被害を受けないという意味でも、これはメリットになると思う。

私が住んでいる地区では、集団資源回収を民間業者が行っている。段ボールや缶等を自分の家の前に出すが、拾い残しは全く無く、回収を始めると小1時間で全て回ってしまう。車の台数や技術的な収集の仕方などもあった上で、早く綺麗に回収できると思うので、参考にすれば良いと思う。

(浅賀委員) 戸別収集は、自己責任の論理で、まちが綺麗になる感じもしなくはない。私は戸建住宅に住んでいるが、ステーションがあり、皆さんがごみを持ってきて、掃除したり、いい加減なごみも頻繁にありと、そういうことはなくなると思うが、今コミュニティが無くなっていて、隣に住んでいても何か知らないみたいな感じで、地域があってないような環境がある。どなたであってもごみは出さないと生きていけない。外国籍の方とか1人住まいの高齢者の方とか、様々な事情の中で暮らしている方が多くいるので、戸別回収は何か良い気もするが、コミュニティみたいなところがますます無くなっていくことも危惧している。ごみ出しで皆さんと会話したり、色々なこともしている現実もあるので、その辺は色々な方に意見を聞いていかないと、単なる成果論とか、量とか、時間とか、数値的なことだけで済ましてはいけないという考えを持っている。

(松平委員) 事務局には戸別収集の先行実施自治体の経費を出してもらわないと、倍以上ではないかというご意見もあるので、ぜひお願いしたいと思う。今日はスタートなので、色々なデータを事務局で集めていただき、それで判断していくというのが良いと思う。

それから、お金がかかるので、前から中島委員も言っていたが、戸別収集と有料化を一緒にやって欲しいという話もあったが、そのお金の使い方ですら市民に理解をいただくというのも良いと思う。

有料化導入の市民理解を得るために、私は地球温暖化対策から入った。IPCCでは2050年には夏の気温が48度になると。皆さんは亡くなっているかも知れないが、皆さんのお子さんたちは夏に苦しむ。少しでも二酸化炭素を減らすために、燃やせるごみを減らしましょうというところから始めて理解をいただいた。

戸別収集では小動物の被害の話もあったが、特徴的だったのは西東京市で、戸建住宅の方はごみ袋を門扉にぶら下げた。なぜならば、カラスはホバリングできず、ねずみはジャンプしても届かないので、門扉にぶら下げるといふ収集の仕方を徹底していた。

皆さんまだ気が付いてないと思うが、ごみの有料化で袋を販売したら市民が使ってくれると思うのは大きな間違いで、戸建住宅の人は使わなければいけないから買うが、そうでないところは、使わない人が必ずいる。20世帯ぐらいのアパートなら、中身を開けて排出した人に持っていけば良いが、一番悩ませたのがUR団地である。UR永山団地の1500世帯が、有料化が始まっても全てレジ袋で出していて全く使ってもらえなかった。誰が出したか分からないというのが皆さんのご意見であった。しっかり使ってもらえるのは戸別収集の場合だけであり、集積所では使わない人が必ず出る。UR永山団地全員の方に使っていただくまでには3ヶ月かかった。しっかり説明してやっと使ってもらえたが、特にステーション収集の場合、そのようなことが起こる。

3 議題

(1) 令和6年度審議会の進め方について

ア 家庭系一般ごみの有料化等の検討の進め方について

イ スケジュールについて

事務局から説明を行った。

【質疑事項】

(藤倉委員)そもそも何故、有料化と戸別収集について検討しているのかと言えば、前回出した答申があり、その中で戸別収集や家庭ごみの有料化の導入について検討することを審議会の意見として出したことが根拠になっていると理解している。

ただし、この2点は令和9年までの基本計画の中には見つからないように思う。諮問されているわけでもないのに、自由に検討してくださいという位置付けなのか、審議会に対してどういう答えの出し方を求めているのかを、まずは確認したい。

また、プラ新法に基づく製品プラの回収方法は非常に大きな問題のはずであり、市で色々検討されているのかもしれないが、それは全く審議会の議題にはならないのかも伺いたい。行政にお任せする部分もあると思うが、すごく大きな分別の変更になるので、容リプラの現状と合

わせてしっかり審議すべきであり、今有料化を議論しようとしているが、市民に対してごみの減量化・資源化をどう求めるかの全体像を考えて検討すべきだと思う。製品プラが全く別のところで動いているとこの議論はやりにくい。

例えば、市民の方に、製品プラ回収もやるし、有料化もやるし、ふれあい収集もやる、だから協力してくださいという形でいくのか、3段階口ケット方式でバラバラで行くのか。どう考えているのかは政策を進める上でとても大きい。

有料化・戸別収集を検討する根拠は何か。それから製品プラはこの審議会で検討するのか。この2点を教えていただきたい。

(事務局) まず最初のご質問だが、基本計画の92頁にある「効率的な収集運搬体制の検討や市民ニーズに対応したごみ収集の検討」が戸別収集の部分であり、その上の「ごみ出しが困難な方への対応の検討」がふれあい収集に当たるものと理解している。

調査検討を令和6年度から9年度までと示しており、時期やどう検討するなどは書かれていないが、最終処分場の延命化や清掃施設のダウンサイジングの対応が喫緊の課題という認識を持ち、しっかりと検討を進めていきたい。また、実施事業4の中の「家庭から排出される一般ごみの有料化の検討」も併せてご検討いただきたいと思う。

市がいつからやるのか、その腹づもりをお聞きになられていると解釈すると、現時点で判断をするのはまだ早いと思いつつ、皆様のご審議をいただきながら、時期は申し上げられないが、皆様のご意見や市民のニーズ調査等も行い、しっかり判断を頑張らせていただきたいと思う。

製品プラについての進行管理は、計画書の88頁のプラスチックごみの削減に書いてあり、6、7月にモデル事業を実施しているところである。その実施結果は審議会で報告させていただき、本格実施という意思決定をしたら、もっと具体的なやり方についてお示しをさせていただき、議論をして、様々なご意見をいただいて進めていきたいと考えている。

(浅賀委員) 普通、審議会は市長からこのことについて議論して答申を出していただきみたいなことで、答申がまとまったら、それを議会に諮り、政策化していく、大体そういう流れと認識している。

有料化・戸別収集というとても大きな課題をごみの減量化のためと言っているが、この審議会で答申みたいなことがされて政策化されてしまうのか。そうするととても重大な責任があるので、所属している会の皆さんに意見を聞くとか、広く市民の皆様アンケートやご意見をいただ

くような場を作っていけないと、簡単には結論が出ない問題と思う。やはりここで答申みたいなこと出すわけではないのか、確認したい。

(事務局)市としての立場をはっきりさせた上で議論するのであれば諮問や答申という手法は馴染むと思うが、一定の期間の中で皆さんのご意見が一本化できるものなのかどうなのかというのも一つあると思う。先ほどもお話したとおり、有料化・戸別収集、この2つを柱に色々なご議論をとにかくしていただきたいと思う。

所属団体のご意見も聞かせていただきたいと思うが、意見をまとめてくださいというよりも、色々な議論をして、それを踏まえて私たちも判断していきたいというところである。

補足だが、ごみの減量は脱炭素に非常に貢献するという話があった。部長の肩書にもゼロカーボンが付いていて、当然念頭にあり、繋がることは認識した上での話である。

(中島委員)なぜ有料化や戸別収集の検討を強く求めているかと言えば、私は麻溝地区自治会連合会の会長をしているが、現在の最終処分場が麻溝地区にあり、次期最終処分場も麻溝地区の2箇所が津久井地区の2箇所とともに候補地になっていることがある。次期最終処分場の候補地を絞り込む作業が既に始まっている中で、麻溝地区ではまちづくり会議に最終処分場部会を設け、市の職員にも来てもらい対応を検討している。

最終処分場部会では、麻溝地区は今までずっと市内全域のごみを受け入れて来ているのに、次の最終処分場も麻溝地区に造るのかという意見は当然ある。しかし、ただ反対するだけでは問題は解決しないため、ごみ問題の在り方や地域の将来を見据えながら、不本意ではあるが、どうしたら受け入れができるのかということも議論している。

次期最終処分場の候補地は4箇所あるが、これは適した場所が4箇所あるということではなく、様々な対策等を講じても、市内には新たに造れる可能性があるところが4箇所しかないということ。今後、安定的に最終処分場を造っていくことは難しいと理解している。

ごみの減量化を進め、現在の最終処分場をできるだけ延命化し、次期最終処分場も地元負担をかけないよう可能な限り小さくする。さらに言えば、次の次の最終処分場は造らないというところまで考えていく必要があると思っている。麻溝地区での議論を審議会でも紹介しながら、皆さんのご意見も聴かせていただきたいと思っている。

それからもう一つ、次期最終処分場の候補地以外の地域の方には、ごみの問題がどれだけ切迫していて、危機感を持たなければならない問題

なのか、なかなか理解していただけない。自分事として考えていただけないということがある。先ほど市民アンケートという話もあったが、市にはアンケートを取る前に、なぜごみの減量化に取り組まなければならないのか、市民に理解してもらう努力を最大限していただきたい。

ごみは誰でも出す訳で、本来は自分たちの地域で最終的に処分すべきものと思っている。それができず、麻溝地区や津久井地区にお願いせざるを得ないのであれば、自分たちは何をすべきかを考えていただきたい。自分たちも最大限ごみの減量化に向け努力するから、何とか受け入れてほしいという話なら考えようもあるが、ただ単に必要な施設だからと言われても受け入れは難しい。そのことをよく考えていただきたい。

(須藤委員) 自分の家からごみを出してしまうと、皆それで終わり。最終処分場のことは考えている人はあまりいない。有料化とか戸別収集の話を良くするが、それが何故なのか、最終処分場の話となるとそこで話が途切れてしまう。ごみを燃やせば灰が出て、それがどこに行くという状況もわからないし、埋め立てていることも知らず新たな候補地という話もピンとこないところがあり、自分の家だけ綺麗にすればもうそれで良いみたいな感覚がある。やはり最終処分場のことをもっと市民の皆さんに知ってもらい、だから有料化は良いプランと思う。最初はごみが減っていくのであれば有料化しなくても良いと思っていたが、最終処分場がいっぱいになってしまうと困るので、有料化や戸別収集を今改めて考えていかなければならないと思う。

有料化でお金がかかることになると、高齢の方や低所得の方は、今物価も上昇しているし、支出も多くなり負担になるかも知れないので、無料とまでは言わないが配慮した形をとってもらえれば良いと思う。

5 その他

(事務局) 委員の皆様には推薦団体があると思うが、団体の方にこの審議会での意見、議論の内容をフィードバックいただき、ご意見をお聞きいただくことは大変ありがたいと思う。進め方については適宜ご案内するので、団体からのご意見をお聞かせいただきたいということがあれば、あらかじめご案内させていただきたい。

今後、有料化・戸別収集に関する議論を進めていただくにあたり、廃棄物の処理に関する施設、例えば清掃工場であるとか、最終処分場。また、ご協力が得られれば、戸別収集の人員体制や収集の実態を、市の収集業務を請負っていただいている民間事業者の施設見学をして、市のご

み処理の実態等を見ていただいた上で、話を進めるのも良いかなと提案させていただく。既に見られた方もいると思うが、見学とその後の議論を、次の審議会で実施させていただきたいと考えている。

基本的には参加は委員のみで、所属団体には委員から感想を伝えていただきたいと思うが、そのような形で進めさせていただき、3回目以降も、事前にテーマをお伝えさせていただいた上、できる限り資料も揃えたいと思うので、よろしく願いしたい。

6 閉会

相模原市廃棄物減量等推進審議会委員出欠席名簿

(五十音順・敬称略)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	浅賀 きみ江	さがみはら消費者の会		出席
2	安藤 正義	相模原市老人クラブ連合会		出席
3	内田 勝久	神奈川県立学校長会議 相模原地区会議		欠席
4	内山 雅之	相模原市農業協同組合		欠席
5	近江 良一	相模原商工会議所		出席
6	大久保 匡	相模原廃棄物対策協議会		出席
7	大河内 由美子	麻布大学		出席
8	加賀谷 育子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		出席
9	栗岡 理子	公募		出席
10	須藤 みね子	さがみはらリサイクル連絡会		出席
11	武井 俊長	津久井地域不法投棄防止協議会		欠席
12	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会	会 長	出席
13	中島 勝平	相模原市自治会連合会		出席
14	原 正弘	神奈川県県央地区廃棄物処理業協議会		出席
15	藤倉 まなみ	桜美林大学	職務代理者	出席
16	堀川 伸晴	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
17	松平 和也	公募		出席
18	矢部 健	相模原地域連合		欠席
19	山田 とし子	相模女子大学		欠席